



精神神経科 教授
古郡 規雄

てんかんは症状が多岐にわたり、早期発見・早期治療が何よりも大切です。「もしかして」と感じられた際には、脳波検査を含めた専門的な診療が可能な当院へご紹介ください。最近では趣味のゴルフを友人たちと楽しむのが良い気分転換になっており、しっかりリフレッシュしたうえで日々の診療に臨んでおります。



救急・集中治療科 准教授
内田 雅俊

当院ではドクターヘリの運用を含め、県内で唯一の体制による救急・集中治療を実施し、地域医療に貢献しております。今後も患者さん一人一人の命と生活を守るため、全力を尽くしてまいります。プライベートでは家族と過ごす時間が何よりの癒しです。興味のある数学の勉強にも励み、自己成長につなげていきたいと考えております。



てんかん医療を支える精神神経科 発作とともに現れる心の症状を診る

現在のてんかん診療では、発作症状などの神経疾患を脳神経内科や脳神経外科が担い、精神症状を精神神経科が担う診療体制となっております。患者さんの中には、不安や抑うつ、幻覚、妄想などの精神症状が発作の影響で現れることがあります。このような状態を「てんかん精神病」と呼び、当科では薬物療法やカウンセリングを中心とした治療を行っております。また最近では、一見てんかんのような症状にみえても、実際には精神疾患による「心因性非てんかん性発作」がみられるケースも課題となっております。発作中の脳波検査は現実的に難しく、診断には慎重さが求められます。医師は、こうした発作の見極めと適切な治療方針の判断にも重要な役割を果たしております。同時に、発作への不安や社会生活への影響など、さまざまな悩みを抱える患者さんやご家族に安心して治療を受けていただけるよう、心理的な負担に寄り添うことを心がけております。

てんかんに対する救急医療と集中治療 命を守る迅速かつ慎重な救急対応

てんかん発作は長時間続くと、てんかん重積状態に陥り、脳へのダメージや呼吸・循環機能の低下を招き、命に関わる危険な状態となります。そのため、一刻も早い治療と適切な初期対応が欠かせません。救急現場では、まず気道確保・呼吸管理・循環の安定を優先し、その後、意識評価や原因の検索に進みます。また、けいれんが持続する「けいれん性てんかん重積状態」だけでなく、外見上けいれんのない「非けいれん性てんかん重積状態」もあり、脳波検査を行わなければ診断が難しいケースもあります。近年は高齢者のてんかん発作による救急搬送も増えており、転倒や交通事故を伴うことも少なくありません。そのため、発作によるものかどうかを慎重に判断することが求められます。当科では、てんかん重積状態に対する初期治療や全身管理を担い、脳波異常や発作の根治治療は他科の専門医に引き継ぎます。救命と専門的な治療の両立を図るため、日頃から他科と垣根のない関係を築き、密な連携を大切にしております。

DOKKYO MEDICAL SCOPE

— 獨協の今を識る — vol.9



最新の知見と
治療法で支える
てんかん治療の
現在地



 獨協医科大学病院
Dokkyo Medical University Hospital

小児科 TEL: 0282-87-2201
脳神経外科 TEL: 0282-87-2205
脳神経内科 TEL: 0282-87-2198
救急・集中治療科 TEL: 0282-87-2477
精神神経科 TEL: 0282-87-2186

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字
北小林880 TEL: 0282-86-1111(代表)



獨協医科大学 創立50周年記念事業

 50周年記念事業に関する
お問い合わせはこちらまで
獨協医科大学創立50周年記念
事業推進室
企画広報部内
TEL: 0282-87-2107

DOKKYO MEDICAL SCOPE 獨協の今を識る vol.9 2025年7月発行 発行元 獨協医科大学病院 地域連携・患者サポートセンター TEL: 0282-87-2383 Eメール: renkei@dokkyomed.ac.jp

※QRコードを読み取ると、診療に関する解説動画(YouTube)をご視聴いただけます。または、「DOKKYO MEDICAL SCOPE —獨協の今を識る—」で検索してください。

獨協医科大学病院専門チームによる、てんかん診療体制



小児におけるてんかんの特徴と治療 正しい理解と適切な支えとなる医療



てんかんは、脳の神経細胞が一時的に過剰な電氣的興奮を起こすことで、発作を繰り返す病気です。けいれんや意識障害、感覚異常など、症状は多岐にわたりますが、全体の約8割は薬で発作のコントロールが可能となっております。しかし、精神疾患と誤解されることも多く、正しい理解と偏見のない支援が必要とされております。てんかんは、自然に治るものから薬が効きにくい難治性まで、約30の症候群に分類されており、発症は生後1年未満や10歳までが多く、脳の発達と深く関係しているとされております。治療においては、脳波検査やMRIなどの各種検査を組み合わせ、発作型を見極めたうえで、適切な治療方針を決定しております。近年は新薬も登場し、手術による発作の改善も可能となっております。小児てんかんの約85%は寛解に至りますが、発作が持続する場合にはQOL(生活の質)の向上や社会的支援が重要です。当科では未来を担う子どもたちの心と身体の健康を守り、その成長を見守る医療を大切にしております。今後も、てんかんに対する正しい理解と支援の輪を広げていけるよう、医師が一丸となって努めてまいります。

小児科 教授
白石 秀明

当院は、適切な診断と治療の選択、そして早期対応が可能な診療体制を整え、患者さんご家族が安心してご相談いただける環境づくりに努めております。私自身はラグビーが好きで、現在も競技を楽しんでいます。心身のリフレッシュにもなり、私にとって大切な時間です。勝負の世界で培われた「あきらめない気持ち」を胸に、これからもてんかん診療に真摯に取り組んでまいります。



薬が効かなくてんかんに対する外科的治療 新たな選択肢となる、てんかん外科治療



てんかん治療の基本は薬による内科的治療で、多くの患者さんは発作のコントロールが可能です。しかし、中には複数の薬を試しても発作が抑えられない方もいらっしゃいます。その場合、日本てんかん学会では2〜3種類の薬を適切に使用しても効果がないときは、外科治療などの選択肢を検討するよう推奨しております。治療法には、原因となる脳の部位を切除する手術をはじめ、発作の広がりを防ぐ脳梁離断術、電気刺激によって発作を抑える迷走神経刺激療法や脳深部刺激療法などがあり、患者さんの状態や生活背景に応じて適応を判断いたします。特に側頭葉てんかんに対する手術は、発作消失率が高いことが明らかになっており、QOL(生活の質)を大きく向上させる可能性があります。当院では、最新の検査機器と多職種の専門スタッフが連携し、患者さんやご家族に寄り添う医療を実践しております。私もこの栃木県の医療風土に共感し、てんかん外科治療の拠点として新たな診療を始めました。地域の先生方には、どんな症例でもまずはお気軽にご相談いただけますと幸いです。私たちが責任を持って診断し、最適な治療方針をご提案いたします。

脳神経外科 教授
藤本 礼尚

当院では“発作ゼロを目指すてんかん治療”を目指しております。勉強会も行っておりますので、地域の先生方もぜひご参加ください。また、どんな患者さんでも受け入れますので、躊躇なくご紹介ください。赴任してまだ間もないですが、栃木暮らしは快適そのものです。自然豊かで趣味のハイキングをしながら、気持ちをリフレッシュし、日々の診療に集中できるよう努めております。



脳神経内科でのてんかん診療 多様な原因に応じた適切な診断と治療



てんかんは多様な原因を持つ病気で、脳卒中後や自己免疫性、アルツハイマー病に伴うものなど、さまざまな原因があるとされております。また、失神や睡眠障害など、てんかんと類似した症状を示す疾患も多く、正確な診断と専門的な対応が求められます。当院の脳神経内科では薬物治療を基本とし、発作が抑えられない場合などの難治性症例については、院内の定期カンファレンスで各科と連携しながら、外科治療も含めた最適な治療方針を検討しております。自己免疫性脳炎による発作には、免疫療法による早期介入を行っております。

特に高齢の方では、脳卒中後のてんかんが多く、発症後しばらく経ってから起こる遅発性てんかんも少なくありません。MRIや脳波検査、発作のタイミングを総合的に判断し、適切な治療方針を決定しております。また、アルツハイマー病でもてんかんを合併することがあり、発作が認知機能の低下を進行させる恐れもあるため、早期の対応が重要とされております。夜間の異常行動についても、てんかん由来か睡眠障害によるものかを慎重に鑑別し、ビデオ脳波や睡眠ポリグラフ検査を行っております。当院では脳神経外科、小児科、脳神経内科、精神神経科、救急・集中治療科が連携し、質の高い医療提供に貢献してまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

脳神経内科 教授
鈴木 圭輔

治療が安定した患者さんは地域の先生方と連携し、通院負担の軽減にも努めております。生活の工夫などもご提案し、安心して過ごせるよう支援いたしますので、どうぞ私たちにお任せください。休日は運動の習慣をつけるべく、最近始めたばかりのゴルフで体を動かすようにしております。心身共に健やかな状態で、患者さんと向き合い、仕事に取り組めるよう心がけております。

